

経営比較分析表（平成30年度決算）

静岡県 御前崎市

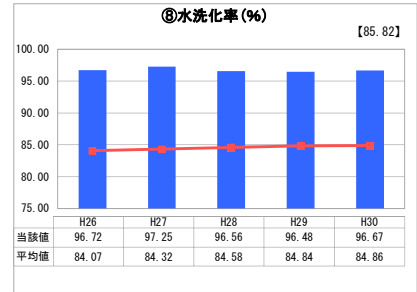
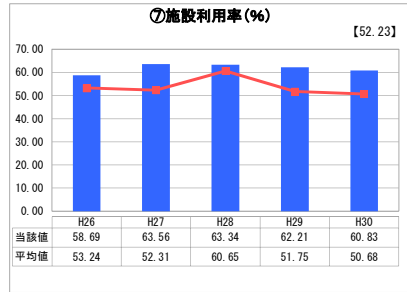
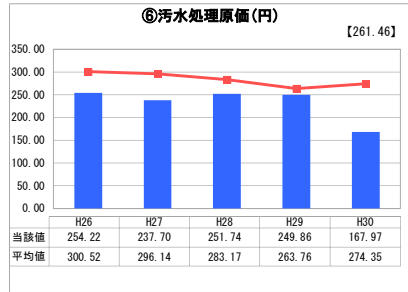
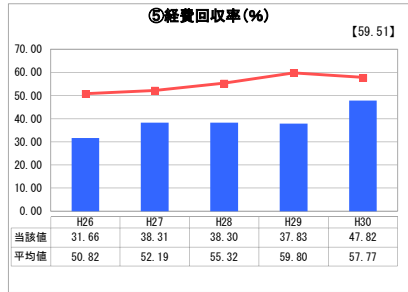
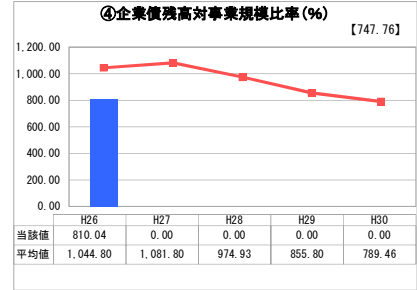
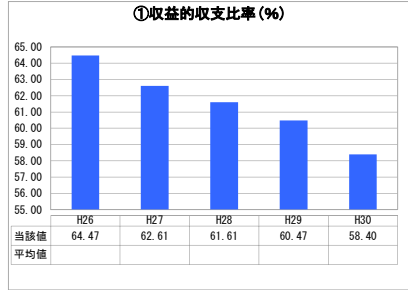
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	25.56	99.70	1,728

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
32,733	65.56	499.28
処理区域内人口(人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
8,317	3.72	2,235.75

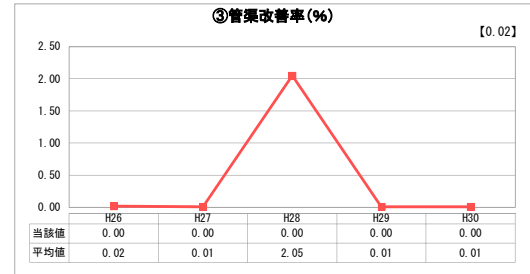
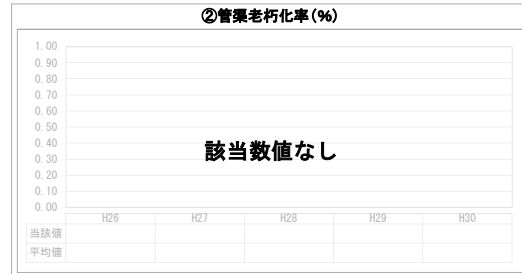
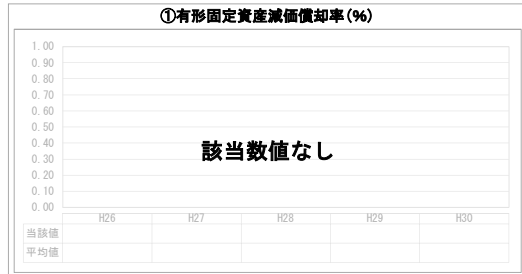
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

処理区域内の面整備が概成されており、現在は維持管理を主体とした事業運営の状況にある。経営面をみると、類似団体に比べ使用料金を低くおさえているため、維持管理費を料金収入で賄っておらず、一般会計繰入金に依存した不健全な経営状況である。収益的収支比率について平成30年度は公営企業会計移行に伴う打ち切り決算により、総収入と総費用が減少したが、地方債償還金は減少していないため、平成29年度に比べ下がっている。収益的収支比率が100%を下回っている理由は、赤字分のみを一般会計より繰り入れており、利益が計上されないためである。また地方債償還金は横ばいであるが、料金収入が減少傾向のため、収益的収支比率も減少傾向にある。対策として公営企業会計の適用後に経営戦略を策定し、経営改善について検討していく。経費回収率については、打ち切り決算で汚水処理費が減少したため下がっている。汚水処理原価については打ち切り決算により、汚水処理費が減少しているため下がっている。企業債残高対事業規模比率については、平成27年度より一般会計からの繰入金を反映させたため0となっている。全体的に前年度と差がある項目については打ち切り決算が影響していると考えられる。

2. 老朽化の状況について

現在、管路更新実績はないが、今後はストックマネジメント計画に沿った効率的な維持管理に努める。

全体総括

使用料金の見直しを検討するなど独立採算の原則を意識した企業経営に留意する必要がある。平成31年4月からの公営企業会計への移行に伴い、経営戦略を策定し、経営改善に努める。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。